

ごあいさつ

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震から10年目を迎えて、この一年を振り返って見ますと、昨年は、観測史上最多となる10個の台風が日本に上陸し、新潟県中越地震(Mj6.8)や釧路沖地震(Mj7.5)を始めとする最大震度6弱以上の5回の大きな地震が発生しました。これらによって引き起こされる災害に対しては、我が国としていつも備えておく必要が生じてきています。一方では、成長・消費型社会から循環・蓄積型社会への社会構造の変革が急がれており、経済の効率を重視した建設ストックの維持管理、活用が重要な課題となってきました。このような状況を背景に、トビシマでは、「防災のトビシマ」をスローガンに、職員が一丸となって防災関連の技術開発と持続可能な社会ストックの創造・維持に努めて参りました。

防災は、災害発生メカニズムの解明、構造物とそれを支える地盤の力学的な調査・評価・設計解析、構造物の耐久性向上、経済的で高品質な施工方法、さらには、維持管理に至るまでの幅広い技術に関連いたします。このため、従来の建設を始めとする物作り技術だけでなく、これまで培ってきた調査診断や設計解析に至るまでのトータルな技術を駆使して、防災に関連するニーズに対して応えさせていただく所存であります。

とびしま技報は、創刊より一貫して、研究開発の成果発表だけでなく、土木や建築の計画・調査・設計・施工・維持管理におけるさまざまなソリューションを紹介して参りました。企業活動を通じて培ってきた技術は、今後の同じような計画や工事のお役に立つものと確信し、本書で紹介させて頂いておりますが、皆様におかれましては「とびしま技報」をご高覧いただき、ご意見やご批判を賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりますが、これまで同様に、トビシマへのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2005年3月
技術研究所 所長
近 久 博 志